

## 令和4年度事業報告書他における全学課題事項

No.	種 別	内 容
1	区分 (対応)	教学 (改善責任者：戦略企画室室長)
	問題点	<p>大学全般</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の教育の特色である「テーラーメイド教育」の見直しが必要である。</li> <li>・「教科書シリーズ」、「学修ポートフォリオ」、担任制度について見直しが必要な時期に来ている。</li> <li>・「駒沢女子大学教科書シリーズ」の新規刊行が少数になっている。</li> <li>・担任制では学類・学年によっては一人の教員がかなり多数を受け持つかたちになっている。</li> <li>・「授業アンケート」の回収率低下の傾向がみられる。</li> <li>・「卒業年次アンケート」の回収率が低下している。</li> </ul>
	内部質保証委員会からの改善策の提案	<p><b>(テーラーメイド教育、学修ポートフォリオ)</b></p> <p>テーラーメイド教育＝すべての教職員が学生一人ひとりと向き合う教育のこと。テーラーメイド教育の概念が教職員に浸透しにくい→実際の活動に結びつかない。また、様々な取り組みやプログラムをまとめており、中には関係性の薄いものもある。</p> <p>●「テーラーメイド教育」に代わるビジョンの検討          建学の精神：「正念」と「行学一如」。教育の理念：知性と理性を備えた心豊かな女性の育成→禅を学び自分を整え、時代が求める女性の育成。教育のモットー：特色ある学びへ。※実践的側面：教育力、ミッション・アウトカム重視</p> <p>教育の理念③面倒見ある教育を基礎にテーラーメイド教育へは、教育の理念③少人数制教育へ変更、見直し。建学の精神を学ぶは特色ある学びに移動。</p> <p>●特色ある学びの見直し</p> <p>①建学の精神を学ぶ「仏教学」他（看護学部では基礎ゼミの中でも「自己を知る活動」として坐禅）、②基礎ゼミによる学びの土台作り→教養科目の見直し、③少人数制の学びと授業・カリキュラム改善（学生が主体的に学びやすい環境を一緒に考えながら授業を作り上げていく仕組み→学修者本位の教育の発展）</p> <p>●学修ポートフォリオの運用検討も含め、教育改革方針、ビジョンの策定、それを実現する具体的な方策の検討が必要。</p> <p><b>(駒沢女子大学教科書シリーズ)</b></p> <p>1.授業方法の見直し（教科書＝学ぶ）は知識伝達型の学習法、対面授業ならでの授業の提供。</p> <p>2.必修科目のみ作成→仏教学、基礎ゼミ（学部による）の他、入門科目などに絞る。基盤的な科目のみ→でき</p>

	<p>れば各学年にそういった科目が必要→その科目で学修到達を測る。(教員による間接評価)</p> <p>3.履修人数の調整：100名以上の科目はクラスを分ける(人数が多い=プリント枚数が多くなる)またはオンライン授業(オンデマンド→単位数制限注意)</p> <p>4.教員1名あたりの授業担当数を見直す→重複する科目の削減、履修系統図の活用による教育課程の見直し→教養教育科目の見直し、専門科目のスリム化</p> <p>5.授業改善FDの見直し(例：公開授業廃止→教務委員による授業巡回、授業評価の高い授業の共有に変更など)→改善につながる公開授業に。</p> <p>反転授業、オンライン、ハイブリッドなど授業効果を高める教育方法を取り入れる等、大学の方針を定める。</p> <p>その他、先生方の授業・研究する時間を増やすために→委員会の見直し、教学事務組織の見直し、高等教育政策への理解浸透の必要性あり。</p> <p><b>(授業評価アンケート)</b></p> <p>1.授業科目数の削減(全科目対象は必須。科目数のスリム化、隔年開講にするなどで対応)</p> <p>2.回答者の実名でアンケートを実施する。自分のアンケート回答には責任を持たせる。</p> <p><b>(卒業年次アンケート)</b></p> <p>1.改善の仕組みの明確化(2022は内部質保証委員会→執行部→執行部)改善案→理事会で担当部署へ改善を求める。アクセスや食堂など何年も前から言われる諸問題への改善、見直しの推進。</p> <p>2.対象者の見直し。回答方法をGoogleフォームに変更。また、無記名ではなく、記名式も検討。学修到達度(質問項目の検討必要)も合わせたアンケートにすることで、学類・学科、専攻の負担軽減になる。</p>
改善状況	<p>以下の通り、改善のための準備を行った。本格的に改善へ取り組むのは2024年度前期を予定しており、改組初年度の入学者を対象としたロードマップを作成する予定である。</p> <p>(ティーラーメイド教育、学修ポートフォリオ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の理念及び教育のモットーの策定検討</li> <li>・本学の特色、魅力の再確認</li> <li>・学修ポートフォリオの状況把握と方策検討(駒沢女子大学教科書シリーズ)</li> <li>・現状把握</li> <li>・2025年度の方針検討</li> </ul> <p>(授業評価アンケート、卒業年次アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部質保証委員会及び関係委員会、構成員の確認</li> <li>・改善のためのサイクルを明確にする方策検討</li> </ul>
「改善状況」の根拠資料	根拠資料なし。

＜内部質保証委員会使用欄＞	
検討所見	<p>〈テーラーメイド教育、学修ポートフォリオ〉〈駒沢女子大学教科書シリーズ〉〈授業評価アンケート、卒業年次アンケート〉いずれについても改善のための準備段階にとどまった。令和5年度において確実に推進すること。</p>
改善状況に関する評定	5      4      3 <b>2</b> 1

No.	種 別	内 容
2	区分 (対応)	環境整備 (スクールバス、小田急バス) (改善責任者：法人 事務局長)
	問題点	<p>■スクールバス、小田急バスの増便要望について 混雑時、乗り切れないことがある。南武線との乗り継ぎの問題。実験・実習などのため早く登校したり、遅くまで残って勉強、卒論、卒業制作、国試対策、就活準備、クラブ・委員会活動など、頑張っている学生がストレスなく利用できるようにバスダイヤの見直し。</p> <p>■小田急バスの乗車マナーについて 学生の乗車マナーについての苦情が寄せられることがある。これは地域の方だけでなく、良識ある本学学生にも不快感を与えている。</p>
	内部質保証委員会からの改善策の提案	<p>■<b>スクールバス、小田急バスの増便要望について</b> <b>(【対策案 1】 定期的な実態把握調査の実施)</b> ・4月および前期履修登録確定時。後期履修確定時に新百合ヶ丘駅、稲城駅、稲城長沼駅、並びに下校時の駒沢学園バス乗り場の乗車人数現場調査を各1週間実施し、実態を把握する。 ・調査実施の人員については、シルバー人材センターの活用、教職員によりシフトを組むなどを検討 ・調査の結果をもとに、増便ができない場合であっても、ダイヤ設定の見直しに活用する。</p> <p><b>(【対策案 2】 小田急バスの夜の乗り入れ復活提案)</b> ・小田急バス新百合ヶ丘方面行きは、19:25以降は駒沢学園バス停を経由せず、鶴川街道を通過してしまうが、夜の時間帯も上まであがってこられないか、小田急バスとの交渉を試みる。</p> <p><b>(【対策案 3】 小田急バスについては、実態調査に基づく直行便の適時増便の検討。)</b></p> <p>■<b>小田急バスの乗車マナーについて</b> <b>(【対策案 1】 バス乗車指導週間の設定)</b> 定期的に指導週間を設定する。同時に、学内に啓発ポスターなどを掲示する、Komajo ポータルへの掲出をおこなう。</p>
	改善状況	<p>■スクールバス、小田急バスの増便について 令和5年度よりスクールバスを1台増台したことにより、例年増便対応している分が賄えている状況であり、随時、不足が予想される学内の行事、イベント等、また臨時の事態においても速やかに対応できるよう、スクールバス委託会社との連携を十分取っている。</p> <p>また、小田急バスにおける過剰な利用待ちや乗り遅れ等の状況については、小田急バスの職員による現地での目視確認、把握を行っており、ダイヤ改正等に合わせて対応している。</p>

	<p>また、新百合ヶ丘への本学園発最終時刻を引き延ばす運行の件については、本学の希望を伝えており、小田急バス本社にて検討中である。</p> <p>■乗車マナーについて 乗車マナーについては中高、大学・短期大学を問わずポスター、ポータルなどの掲示により注意喚起を実施する。</p>
「改善状況」の根拠資料	なし
<内部質保証委員会使用欄>	
検討所見	<p>スクールバスの1台追加により増便ができていることは評価できる。小田急バスに関しては今後とも連絡を密にして臨時便など適切な運行を働き掛けていくことが望ましい。ただし、学生からの要望にすべて応えることは困難であり、学生の理解を求めることも継続していく必要がある。あわせて乗車マナーに関しての対策も継続して対策していく必要がある。</p>
改善状況に関する評定	5      4      ③      2      1

No.	種 別	内 容
3	区分 (対応)	環境整備 (Wi-fi) (改善責任者: 法人 事務局長)
	問題点	既に授業の中でもスマートフォンを使って回答したり、アンケートをとったりと、教育方法も進化しており、必須の環境になっている。授業評価アンケートや卒業年次アンケートも Wi-fi 環境がないことで授業中にアンケートを強く薦めることができず、回答率が低水準となり、アンケートとしてのデータの信ぴょう性が疑わしいものになっている。
	内部質保証委員会からの改善策の提案	<p><b>【対策案 1】進捗状況の公開と今後の方針共有</b></p> <p>既に、Wi-fi に関する委員会が立ち上がっていることは周知のとおりだが、進捗状況を公表していない点では、学生にとっても改善に進んでいるのか、何もしてくれていないのかがわからない。教職員に対しても、進捗状況により準備すべきことがあるため、今後の方針も含めて共有してもらいたい。例えば、現在は入学時に推奨スペックのノートパソコンを紹介はしているものの、Wi-fi 環境が整っていないため、購入は必須ではない。もしも Wi-fi 環境が整った際に PC 教場をなくすような方針がでるのであれば、ノートパソコンの購入を必須にする必要も考えなければならない。</p>
	改善状況	<p>■Wi-Fi 設置について (進捗状況)</p> <p>Wi-Fi 設置準備委員会が立ち上がったのち、幾度と委員会を開催し、設備の規模、内容等の検討が行われ、令和 5 年 10 月 12 日に同委員会において、設備内容、業者選定の了解後に 10 月 27 日理事会で設置工事の内容について承認を得、令和 5 年度内に設備工事施工を開始し、令和 6 年 4 月から運用開始となることとなり、11 月 27 日ポータルにて教員向 (根拠資料 1) と職員向 (根拠資料 2) を発信し、情報共有を行い、現状は 4 月運用開始に向けて順調に設備工事が行われている。</p>
	「改善状況」の根拠資料	<p>根拠資料 1: Wi-Fi エリアマップ、工程表</p> <p>根拠資料 2: 学内の Wi-Fi 設備の設置について エリアマップ</p>
	<内部質保証委員会使用欄>	
	検討所見	令和 4 年度の検討を通して令和 5 年度内に設備工事完了の見込みが立った。十分な改善が行われたと判断できる。
	改善状況に関する評定	<p style="text-align: center;">(5)      4      3      2      1</p>

No.	種 別	内 容
4	区分 (対応)	環境整備 (食堂・コンビニ) (改善責任者: 法人 事務局長)
	問題点	食堂に関しては、今年度はメニューについては一定の改善がなされた点は評価できる部分もあるが、金額設定には大きな問題が残っている。特に大学生、短大生にとっては、地方からの下宿組だけでなく、ほとんどの学生がアルバイトをしながら勉学に励んでおり、アルバイトの比重が高くなると、勉強への時間が低下し学校生活への悪影響が考えられる。学内コンビニの品揃えのうち高額な商品には需要が低い。キッチンカーについても値段設定を見直していただきたい。
	内部質保証委員会からの改善策の提案	<p>（【対策案 1】料金設定の幅を広げるよう交渉する。）</p> <p>女子大学であるため、おしゃれなメニューはあってもよいが、200円メニュー、300円メニューなども同時に販売し、選択肢の幅を広げてあげたい。例えば、広く以前話題になった、ご飯とウインナーだけのウインナー弁当200円などがあってもよいのだと考える。そのためには学食やコンビニとの定期的な意見交換の場を設けることも必要。</p> <p>（【対策案 2】営業時間の検討）</p> <p>最近では、学食などでWi-fiが利用できることから、昼休み以外でも学食を利用している学生が増えてきている。例えば、喫茶コーナーだけでも営業時間の延長や、魅力ある食料品自動販売機の設置なども対策案として考えられる。</p>
	改善状況	<p>■食堂のランチに関しては2種類の460円ランチ及び学生ランチとして400円のものを提供しており、安価な種類も増やしてきている。また、焼き立てパンが好評である。</p> <p>料金設定の幅を広げたメニューにあたっては、新たな物価高騰、人件費の引上げ等により苦勞しているが、出来る範囲での実施を交渉中。</p> <p>食品用自動販売機については、コンビニが管理しており、需要の多い商品を扱い、売り切れとなることが多く、短い期間での補充が欠かせない状況である。更に充実した商品の取り扱いについての検討を依頼している。</p>
	「改善状況」の根拠資料	なし
	<内部質保証委員会使用欄>	
	検討所見	学生食堂のメニューの充実をはかり、一定の成果はあったものの、委員会提案の200~300円程度の低額メニューの導入には至らなかった。業者の選定、営業時間の検討など、今後とも引き続き改善計画を立てていく必要がある。

	改善状況に関する評定	5	4	3	2	1